

協同労働の団づくり(実践例③)

東関東事業本部 大場 寛

1. はじめに

- (1)気候変動、ポストコロナ時代
- (2)自分の足で立つ、個々力と協同する社会の到来
- (3)法制化を迎えるにあたって

2. 自己紹介、現在の活動状況

(1)自己紹介

- ・一旦社会人を経て、1998 年に入団(26 歳)、奈良・和歌山(1998 年～2003 年)、鹿児島(2003 年～2007 年)北海道(2007 年～2009 年)、北陸甲信越(2009 年～2010 年)、東京北部(2010 年～2012 年)、九州沖縄事業本部(2012 年～2015 年)
- ・現在は東関東事業本部(2015 年～)

(2)東関東事業本部の紹介・特徴

①事業本部概要

- ・2つの県(千葉、茨城)、5つのエリア、18 事業所、40 現場、組合員数 360 名(全就労者数 500 名)、事業高 11 億円
- ・建物管理(清掃、警備、売店、リネン、電話交換)、高齢者介護(通所、訪問、居宅)、子育て(学童、全児童、児童館、ファミリーサポートセンター、親子ひろば、放課後デイサービス)、自立支援(若者サポートステーション、生活困窮者自立支援相談・就労準備・家計相談・学習支援)、物流、PDF製造、食(配食、給食)、障害のある方の自立支援(B型、多機能型等)

②特徴

- ・労協発祥の事業所(直轄事業団第一号)…東葛病院の建物管理業務受託(1982 年～東葛事業所)、千葉労災病院の設備業務(1982 年～千葉事業所 38 年目)
- ・介護保険事業前からの地域福祉事業所づくり(習志野ぬくもり)
- ・「若者自立塾(芝山町)」(引きこもりの若者の自立と就労に向けた合宿型訓練:2005 年～2010 年)の実績をいかした自立就労訓練→ちば物流、松戸あじさい、東葛へ
- ・社会連帯活動が旺盛に取り組まれている(子ども食堂、寄り道カフェ、ヴェルティ PJ、ワーカーズ中志津、取手、匠瑳、映画ワーカーズ、フードバンク…)

→団づくりの基礎となる“仲間”“居場所”“共に生きる、共にはたらく”“社会連帯”“事業の総合化、複合化”の歴史、文化

3. 協同労働の団づくりとは

- ・先人の事業団運動から大切にしてきたこと
- ・7つの原則を基礎にて協同労働の事業所、現場をつくること
- ・話し合いを基礎に私たち労働者協同組合が存在する(団会議、日常での話し合いから全組合員経営、協同労働をつくる)
- ・日々の実践の評価づくり、よい仕事と協同労働をつなげて

→ただ、この“団づくり”が中々上手くいかない…そんな声もよく聞く

4. 日常の事業所運営での課題

(1)他人事、忙しい

- ・自分の仕事以外はしない、好きな仕事しかしない、仕事を選ぶ
- ・目の前のことで忙しい
- ・縦割り、専門性で分ける仕事
- ・課題を見て見ぬふりをする

(2)給与の事

- ・給与が安い、将来が不安
- ・自分のもらっている給与に対して、自分の仕事をふりかえらない人

(3)人間関係

- ・多様な価値観、違いの中での意見の衝突を避ける
- ・自由に意見が言いにくい
- ・常に敵をつくり仕事をする、自分より下と思う人への冷たい態度
- ・意見が強い人への同調、迎合

(4)人材不足

- ・いつも人材が不足している
- ・次の後継者がいない、育てられない

(5)主体性、協同を言葉だけで求めている

- ・ワーカーズコープの原則、協同労働を言葉だけで押し付けている
- ・協同労働ができていないからダメだ、常に協同労働の監視役になっている

(6)情報が届いていない、形式的な会議

- ・様々な情報が伝わっていない、伝わらない
- ・レジメがない会議、決めない会議、行事等の会議で終始する現場

(7)研修不足

- ・入団時研修を実施していない
- ・協同労働を軸とした学び、事業の研修を怠った現場

5. 協同労働の現場づくりへ(整理すると)

(1)事業所の運営

- ・「こういう事業所にしよう」という事業所の目標、指針づくり、みんなの願いを叶える目標づくり
- ・きちんと話し合う場をつくる(団会議のあり方:何を話し合うのか、事前準備:レジメ、資料、議事録、会議の年間スケジュール)
- ・月のまとめ、週報等みんなで出し合う
- ・みんなで事業計画、予算をつくる
- ・各自の協同労働観を語る

(2)仲間の成長

- ・コミュニケーション…まずは気づき、声掛け、挨拶
- ・狭い専門性から広義な仕事へ
- ・多様性も大事に、受け止めあう関係づくり
- ・相談機能の充実化(仲間、所長、エリア、事業本部)
- ・労協新聞の活用
- ・研修計画

(3)リーダーシップ、マネジメント

- ・より協同労働の事業所、現場にする構え
- ・組合員の出番を沢山つくる、組合員の強みをいかす、主体をつくる
- ・日頃の関係づくり(信頼づくり、誠実さ、注意もする)
- ・丸投げ、責任転嫁しない、最後まで責務を負いきる
- ・方針、計画を立てる
- ・新しい挑戦(仕事おこし、総合化・複合化、社会連帯活動、自治体行動、企画書づくり)、新たな任務)、その為の学び、自らが行動する

(4)まちづくり、社会の課題とつなげて

- ・日々の仕事と社会の課題は常につながっている、ワーカーズコープの使命
- ・生活・社会問題を自分ごとに、失業、孤立分断、気候変動、コロナ禍等もはや他人事ではない
- ・利用者との話し合い(保護者会、運営委員会)、地域懇談会、他の団体、自治体、議員等からの情報共有

6. これが団づくりだったのか(自身の回想)

(1)経営危機での出来事

- ・1999年の経営危機の出来事
- ・出資、自立積立金すら知らない(自身も)、その為の学習会を自らで
- ・清掃現場の改革(新清掃方式)

(2)契約解除の危機

- ・物流現場での危機
- ・リーダー達が立ち上がる瞬間
- ・優劣ではない一人ひとりの力をいかして

(3)地域の中で協同労働を語る

- ・地域福祉事業所づくり、協同集会、映画、みんなのおうちづくりからの学び

7. 団づくりの事例(東関東の仲間)

8. 最後に